

コスタリカ内政・外交定期報告（2017年4月～6月）

2017年4月～6月の当国内政・外交主要事項は以下のとおり。

【要旨】

内政

●2018年大統領選挙の主要野党候補が決定。国民解放党（PLN）はアルバレス・ディサンティ前国会議長，キリスト教社会統一党（PUSC）はロドルフォ・ピサ氏。ソーシャルメディアで人気の高いフアン・ディエゴ・カストロ弁護士与国家統合党（PIN）からの出馬も決定。

●ソリス大統領就任3周年。実務を精力的にこなしているものの，議会を野党が主導し，閣僚の辞任が相次ぐ中，退任まで残り8ヶ月となり，指導力を十分発揮出来ない状況（レームダック化）が進んでいる。

外交

●SICA議長国として，6月28日及び30日，オブザーバー国との外相会合及び第49回首脳会合を開催。サンホセ宣言を発表。

●6月1日，中国との外交関係樹立10周年を迎え，両国首脳によるメッセージ交換を実施。6月7日にはソリス大統領出席の下，記念式典を開催。

I 内政

1 2018年大統領選挙

（1）国民解放党（PLN）の大統領候補決定

4月2日，国民解放党（PLN）の党内選挙の結果が発表され，アルバレス・ディサンティ国会議長が同党の2018年大統領候補として正式に決定。有効票数は149,762票，得票率はアントニオ・アルバレス・ディサンティ国会議長45,1%，ホセ・マリア・フィゲーレス元大統領：38,5%，ロランド・ゴンサレス国会議員：9,1%，シヒフレッド・ロランド元国会議員：7,2%。フィゲーレス元大統領優位との見方もあったが，逆転した。3月にアリアス元大統領がアルバレス国会議長支持を表明したこと，世論調査においてフィゲーレス元大統領の汚職疑惑に対し厳しい評価がなされていたことが影響したとみられる。その後，アルバレス国会議長は5月1日付で国会議員を辞任。

（2）キリスト教社会統一党（PUSC）の大統領候補決定

4日，PUSC内党内選挙が実施され，コスタリカ社会保険庁元長官を務めたロドルフォ・ピサ氏が同党の2018年大統領選挙候補に決定。有効票数は約5万，得票率はオルティス国会議員：得票率約24%，ピサ氏：約69%。

（3）その他

5月7日、広域戦線（F A）の大統領候補がエドガルド・アラヤ国会議員に決定。また、5月31日、SNS等で高い人気を誇るファン・ディエゴ・カストロ弁護士（元公安警察大臣）が国家統合党（P I N）の後ろ盾を得て、正式に2018年大統領選挙に立候補。世論調査では、同氏は、有力候補の中で最も高い支持率を誇っている反面、ポピュリスト的傾向の強い人物であると警戒する声もある。

2 ソリス大統領就任3周年

(1) 新国会役員選挙

5月1日及び2日、新国会役員選挙が実施された。少数政党からの国会議長選出を掲げた、最大野党である国民解放党（PLN）主導による野党間同盟が成立し、前年度に引き続き、野党所属議員が国会の要職を占める結果となった。ソリス政権の任期は残り1年となる中、税制改革等政府が重視する法案可決について、政権が野党が主導する議会の協力を得て政策を実行するのは難しい状況。新役員は以下のとおり。

国会議長：ゴンサロ・ラミレス・サモラ議員（コスタリカ刷新党(RC)）

副議長：ナタリア・ディアス・キンターナ議員（自由運動党(ML)）

第一書記：カルメン・ケサダ・サンタマリア議員（無所属（注：MLから離党））

第二書記：マイケル・アルセ・サンチョ議員(国民解放党(PLN))

第一書記補佐：ロレリー・トレホス・サラス議員（PLN）

第二書記補佐：アベリーノ・エスキベル・ケサダ議員(RC)

(2) 年次施政演説

5月2日、当国国会において、ソリス大統領による年次施政演説が行われた。概要以下のとおり。

ア 冒頭：民主主義の建設と誠実な政府への取組

イ 第一の柱：成長の促進と雇用の拡大

- ・2016年の経済成長率は4.1%。更なる経済成長に向けた取組促進。
- ・2016年の財政赤字対GDP比は▲5.2%。累積赤字国債額は対GDP比で44.9%。財政赤字解消に向けた取組の促進。

・2016年の輸出総額は9.933百万ドル。競争力強化と貿易の活発化。

・国内市場の救済のための中小企業や農業支援。

・インフラ整備の促進。

・都市交通計画の検討。

ウ 第二の柱：不平等の是正と貧困対策

・2016年貧困率は20.5%。貧困対策の強化。

・中退問題への取組、言語教育、職業訓練等を重視した更なる教育改革。

・コスタリカ社会保険庁（CCSS）創設65周年。保険衛生分野への取組促進。

エ 第三の柱：汚職対策と透明性・効率性・開かれた政府

- ・ 2016年の腐敗認識指数は世界41位と過去最高を記録。汚職対策を強化。
- ・ OECD加盟のための努力。
- ・ 行政手続きの簡素化にかかる取組。

オ 麻薬・組織犯罪との戦い

カ 移民, 自然災害等の緊急事態対策

キ 持続可能な発展, 環境保護に向けた取組強化

ク 議会に対する協力の呼びかけ

(3) 閣僚の交代

ア 5月22日, マルセロ・ジェンキンス科学技術通信大臣が, 4月2日に実施された野党国民解放党(PLN)の党内選挙に参加したことへの批判を受け辞任。カロリーナ・バスケス次官が後任に就任。

イ 6月7日, ソリス大統領は年金拠出のための社会保険料の労働者負担率を2.84%から3.84%へ1%あげるという決定を行った, サエンス・コスタリカ社会保険庁(CCSS)長官を更迭。後任としてサンツ保険大臣が就任。新保健大臣には医師のマジョルガ氏が就任。

ウ 6月12日, ビジャルタ公共事業・交通大臣は, 同大臣の妻が家庭内暴力で同大臣を告発したことを受け, 辞任を表明。後任としてバルベルデ前国家道路審議会(CONAVI)総裁が就任。

II 外交

1 二国間関係

(1) 対ニカラグア関係

4月第1週, テロ対策に関し, ロシア軍とニカラグア軍が共同演習を実施。ゴンサレス外相は, 両国の軍事協力の進展, ニカラグア領内への露衛星測位システムの地上ステーションの配備及びニカラグアによるロシアからの戦車購入について, 懸念を表明。

(2) 対ベネズエラ関係

4月から6月にかけて, ベネズエラ情勢に関しコスタリカ政府として状況に深刻な懸念を有している旨度々表明。6月19日から20日に開催された第47回米州機構(OAS)総会の場において, ゴンサレス外相はマドゥーロ・ベネズエラ大統領の主張する制憲議会の招集に対する反対と, 同国における権力の分立と独立, 立法府の権限と基本的人権の保障, 憲法と法の支配の遵守を求め, とロドリゲス・ベネズエラ外相と激しく対立。

(3) 対中国関係

6月1日, コスタリカと中国の外交関係樹立10周年に際し, ソリス大統領と習近平国家主席の間で, この10年の間の両国の関係の強化と戦略的パートナーへの成長を祝うメ

ッセージ交換を実施。6月7日、コスタリカ外務省主催で、ソリス大統領出席の下、国立劇場で開催されたコスタリカ中国外交関係樹立10周年式典において、メッセージが披露された。

2 ソリス大統領の外遊

(1) スペイン

5月7日、ソリス大統領はスペインを公式訪問した。ゴンサレス外相、モラ貿易大臣、ベントゥーラ観光大臣が同行し、フェリペ6世への謁見、ラホイ首相との会談を行い、夫人と共に王宮午餐会に出席した。ラホイ首相との会談では、国際政治における共通の立場の確認、スペインからコスタリカへの二国間協力及び三角協力と南南協力の可能性、スペインからの投資促進等について協議した。また、フェリペ6世との謁見では、中南米の現状や、気候変動問題に関する二国間協力、コスタリカのOECD加盟プロセス、南欧からコスタリカへの観光客増大等について協議した。

(2) オランダ訪問

スペイン訪問後、オランダを訪れ、ロッテルダム港等の港湾を視察し、アムステルダム港の代表との会談においては、同港のクルーズ観光業及び港湾管理にかかる知見をプンタレナス、リモン地域のプロジェクトに活かすことに関する合意に署名した。

3 ゴンサレス外相の外遊・会談

(1) スペイン訪問

4月18日、スペインを訪問し、ダスティス外相と二国間会談を行った。同会談では、上記2(1)のソリス大統領のスペイン公式訪問の準備が話し合われた他、コスタリカとスペインの間の経済関係の現状について確認し、移民の流入、米国新政権との関係、対EU関係、組織犯罪対策など、地域の重要課題について協議した。

(2) カタール訪問

5月14日、カタールを訪問し、シェイク・アブドゥラー・ビン・ナーセル・ビン・ハリファ・アール・サーニ首相及びシェイク・ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニ外相と会談を行った。会談では、コスタリカへの投資促進のほか、ハリケーン・オットーによる被害に対する緊急支援への謝意、及び地球環境問題等について協議した。カタール政府は、観光業への投資可能性について高い関心を示し、調査団をコスタリカに派遣することを検討する旨述べた。また、前年に引き続きドーハ・フォーラムに出席し、「発展、安定と避難民の危機」と題する講演を行った。

(3) イスラエル・パレスチナ訪問

5月17日から18日、イスラエルを公式訪問し、ルーベン・リヴリン大統領、ネタニヤフ首相と会談を行い、イスラエルによるサイバーセキュリティ、組織犯罪と麻薬対策、水処理、最先端技術・観光・市民の安全・水・農業分野における技術協力等について協議

した。また、シリア情勢、ベネズエラ情勢、イスラエルのSICAへのオブザーバー参加の可能性、貿易と投資の促進についても意見交換を行った。18日にはパレスチナのベレンも訪問し、マーヤ観光大臣との会談を行った。

(3) アゼルバイジャン訪問

6月23日、メメディヤロフ・アゼルバイジャン外相が6月2日にコスタリカを公式訪問した際に受けた招待に基づき、アゼルバイジャンを公式訪問した。同国訪問中、ラシデザ大統領及びメメディヤロフ外相との会談を行い、二国間の経済関係強化等について協議した。両国は、6月2日、外交・公用旅券の査証免除協定に署名している。

4 SICA関係（コスタリカが今期議長国）

(1) SICA・トルコ外相会合の開催

4月20日、イスタンブールにおいて、SICA加盟国とトルコの協力と関係強化を検討するための外相会議が開催され、トルコとSICA地域の関係深化の方策について検討され、SICA・トルコ対話と協力フォーラムの開催が発表された。

(2) SICA外相会合の開催

5月4日、サンホセにおいて、中米統合プロセスの将来について協議するため、SICA外相会合が開催され、SICAと加盟国の課題と好機に関する分析、優先順位を踏まえた戦略的アジェンダ、機構のマנדートの実施と結果重視の運営、及び当面の運営事項の決定について検討した。会合には、パナマ副大統領、ベリーズ、エルサルバドル、ホンジュラスの各外相、グアテマラ、ニカラグア、ドミニカ共和国の各外務次官が参加した。

(3) SICA国際協力会合の開催

6月6日から9日にかけて、国際協力会合及びオブザーバー国・ドナー国会合をサンホセにおいて開催。物流、環境等、各テーマごとにマスタープラン策定に向けた協議がもたれた他、地域協力プロセスの効率化と進展、課題等についてオブザーバー国、ドナー国との連携について議論された。

(4) 第49回SICA首脳会合及びオブザーバー国との外相会合の開催

6月28日及び29日、サンホセにおいてオブザーバー国との外相会合及び第49回SICA首脳会合が開催され、新SICA事務局長にマルコ・ビニシオ・セレス・アビレス・グアテマラ元大統領、新SIECA事務局長にメルビン・エンリケ・レドンド・ホンジュラス国土交通省次官が選出された。また、地域統合を進めるための5つの柱として機構強化、社会統合、経済統合、民主主義による安全保障、気候変動及び危機管理の確認、協力促進にかかるサンホセ宣言が発出された。

なお、同宣言には当初、ベネズエラ情勢についての言及が含まれていたが、ニカラグアが強く反対し、削除された。因みに、SICA各国首脳が顔を揃えた同会合で、ニカラグアのみ低いレベル（特定問題担当大統領府大臣）の参加となり、昨今の両国関係の悪さを強く印象付けた。

5 その他

4月19日、コスタリカに事務局を置く、ラテンアメリカ社会科学研究所（FLACSO）の創設60周年記念式典を最高選挙裁判所講堂で実施。コスタリカ政府からソリス大統領及びソラーノ外相代行が出席。